

国際漁業資源評価調査・情報提供委託事業（要約）

アカイカ

三浦太智

目 的

アカイカ秋季発生中部系群（秋生まれ群）の資源水準、およびアカイカ冬春季発生西部系群（冬春生まれ群）の加入水準を推定するため、流網による資源調査を実施した。また、冬春生まれ群の加入状況、漁場形成の把握を目的に、いか釣り調査を実施した。なお、本調査は（国研）水産研究・教育機構等と共同で実施する水産資源調査・評価推進委託事業の一環として行った。

材料と方法

試験船開運丸（199トン）により、2020年6月～8月に北太平洋海域においてアカイカ資源調査（流網）を、また、2020年11月～2021年1月に青森県東方の太平洋海域においてアカイカ漁場調査（いか釣り調査）を行った。各調査の概要は以下のとおり。

1. アカイカ資源調査（流網）

(1) 期 間：2020年6月27日から8月2日

(2) 調査海域：北緯33度30分～北緯45度00分、東経175度30分をAライン、北緯33度30分～北緯45度00分、東経155度00分をBライン、北緯33度30分～北緯41度00分、東経144度00分をCラインとし、各ライン上で海洋観測および流網操業を実施した。対象とした系群は、Aラインが秋生まれ群、BラインおよびCラインが冬春生まれ群である。

(3) 操業回数：Aラインで5回、Bラインで6回、Cラインで4回の計15回実施した。

(4) 調査項目：Aラインで14地点、Bラインで16地点、Cラインで10地点の計40地点において、CTD（seabird社、SBE9plus）により表層から最深500 mまでの水温および塩分を測定した。また、操業15地点において、後述する仕様の調査流網によって漁獲したいか類の尾数を種ごとに計数した。このうちアカイカについては、全数の外套長を測定した。調査流網は、目合48 mm、93 mm、55 mm、106 mm、63 mm、121 mm、72 mm、138 mm、82 mm、157 mm（50 m仕立て）を各3反この順に連結し、さらに37 mm（50 m仕立て）2反を繋げ、連結した全体の網の前後に網なりを保つため商業網（115 mm）各9反ずつを連結した仕立てとした。

2. アカイカ漁場調査（いか釣り調査）

(1) 第一次調査

① 期 間：2020年11月1日から11月16日

② 調査海域：三陸沖合から道東沖合海域

③ 操業回数：10回

④ 調査項目：CTD（seabird社、SBE9plus）により表層から最深500 mまでの水温と塩分を測定した。2連式14台の自動いか釣り機で釣獲したいか類について、尾数を種ごとに計数した。このうちアカイカについては全数の外套長を測定した。

(2) 第二次調査

① 期 間：2020年12月6日

② 調査海域：道東沖合海域

③ 操業回数：1回

- ④ 調査項目：CTD（seabird社、SBE9plus）により表層から最深500 mまでの水温と塩分を測定した。2連式14台の自動いか釣り機で釣獲したいか類について、尾数を種ごとに計数した。このうちアカイカについては全数の外套長を測定した。

(3) 第三次調査

- ① 期 間：2021年1月10日から1月25日
 ② 調査海域：三陸沖合から道東沖合海域
 ③ 操業回数：8回
 ④ 調査項目：CTD（seabird社、SBE9plus）により表層から最深500 mまでの水温と塩分を測定した。2連式14台の自動いか釣り機で釣獲したいか類について、尾数を種ごとに計数した。このうちアカイカについては全数の外套長を測定した。

結 果

1. アカイカ資源調査（流網調査）

15地点中13地点でアカイカの漁獲があり、有漁率は86.7 %であった（図1）。漁獲されたアカイカの外套長の範囲は15 cmから48 cmであった。

Aラインでは、北側のA-4、7、10で30 cm以上の大型個体が主体、南側のA-16で30 cm未満の小型個体が主体であった（図2）。

Bラインでは、北側のB-33、36、39で30 cm以上の大型個体が主体、南側のB-27、30で30 cm未満の小型個体が主体であった（図2）。

Cラインでは、北側のC-46、49で30 cm未満の小型個体が主体、南側のC-52で30 cm以上の大型個体が漁獲された（図2）。

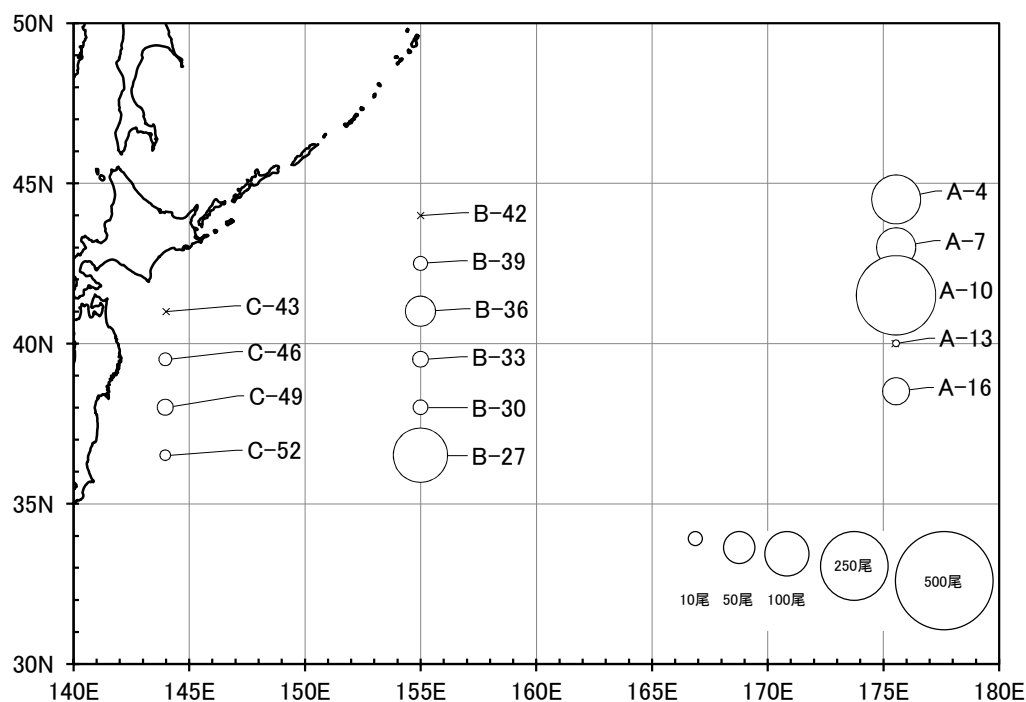


図1. 2020年度アカイカ資源調査結果（流網調査の地点別漁獲尾数）

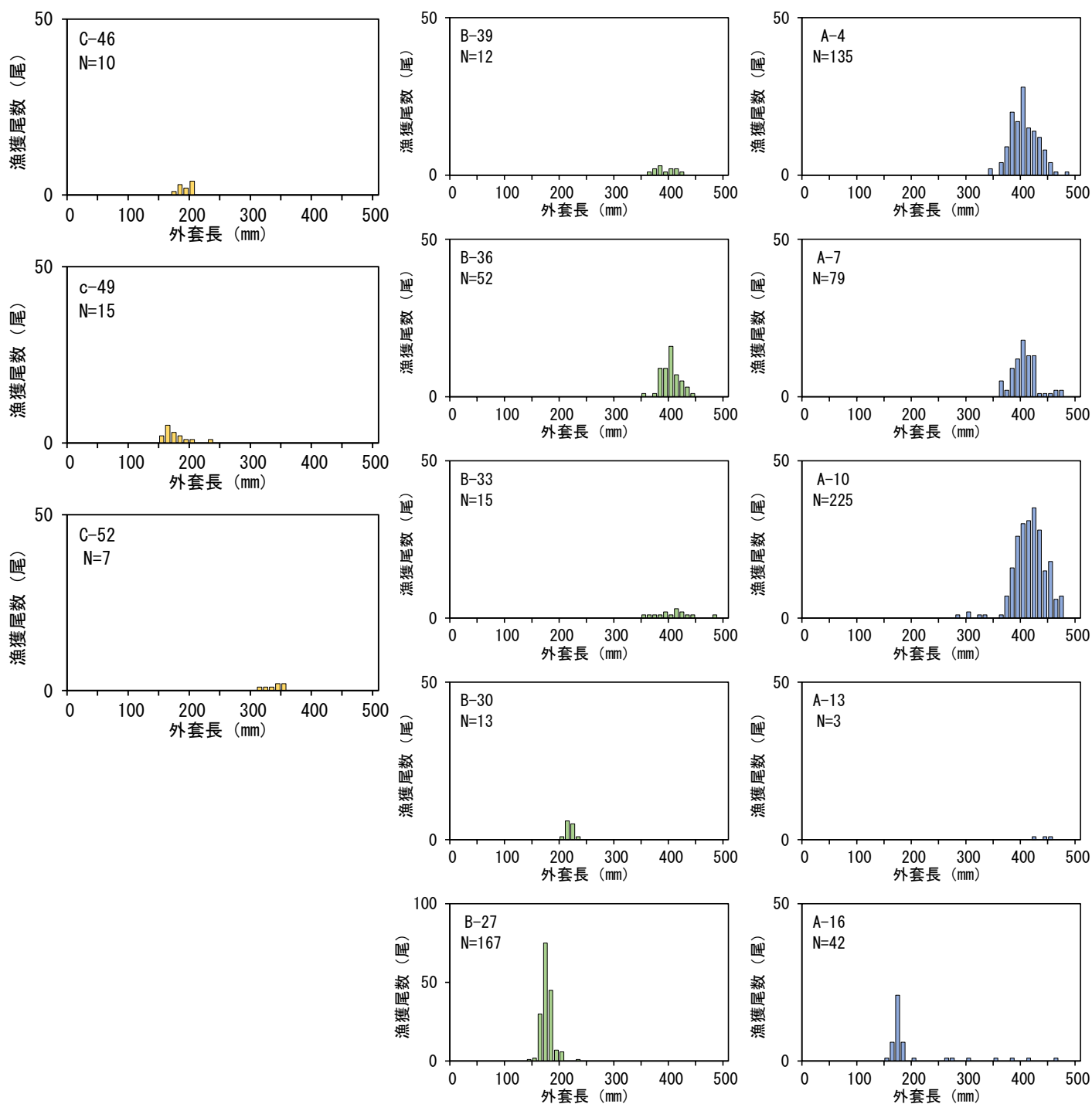


図 2. 2020 年度アカイカ資源調査結果（流網調査の地点別外套長組成）

2. アカイカ漁場調査（いか釣調査）

（1）第一次調査

海洋観測の結果、0 m水温が11.3～11.6℃、50 m水温が6.7～14.1℃、100 m水温が2.6～9.6℃であった。

漁獲調査の結果、10地点中5地点でアカイカの漁獲があり、有漁率は50％であった。漁獲されたアカイカの外套長は27 cmから41 cmで、有漁地点の漁獲尾数は4尾から184尾、1台（1ライン）・1時間当たりのCPUEは0.05から1.26尾であった（図3）。

（2）第二次調査

海洋観測の結果、0 m水温が13.0℃、50 m水温が13.1℃、100 m水温が12.6℃であった。

漁獲調査を実施した1地点でアカイカは漁獲されなかった（図4）。

（3）第三次調査

海洋観測の結果、0 m水温が8.2～11.7℃、50 m水温が8.4～11.9℃、100 m水温が7.0～11.9℃であった。

漁獲調査を実施した9地点全てでアカイカは漁獲されなかった（図5）。

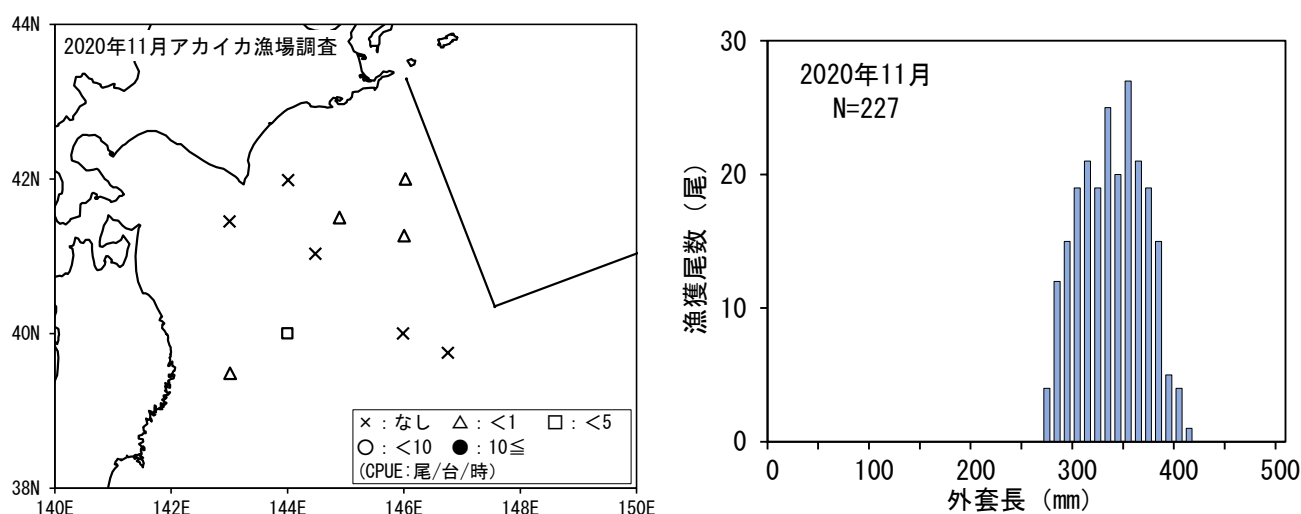


図 3. 2020 年度アカイカ漁場調査結果（第一次、左図：地点別 CPUE、右図：外套長組成）

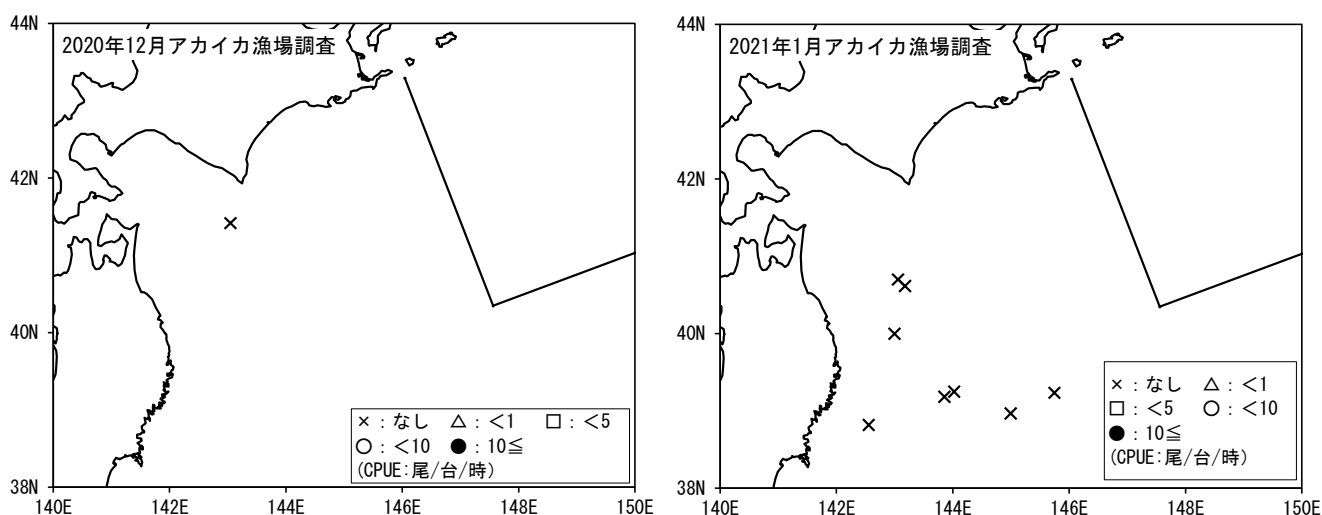


図 4. 2020 年度アカイカ漁場調査結果（第二次調査の地点別 CPUE）

図 5. 2020 年度アカイカ漁場調査結果（第三次調査の地点別 CPUE）